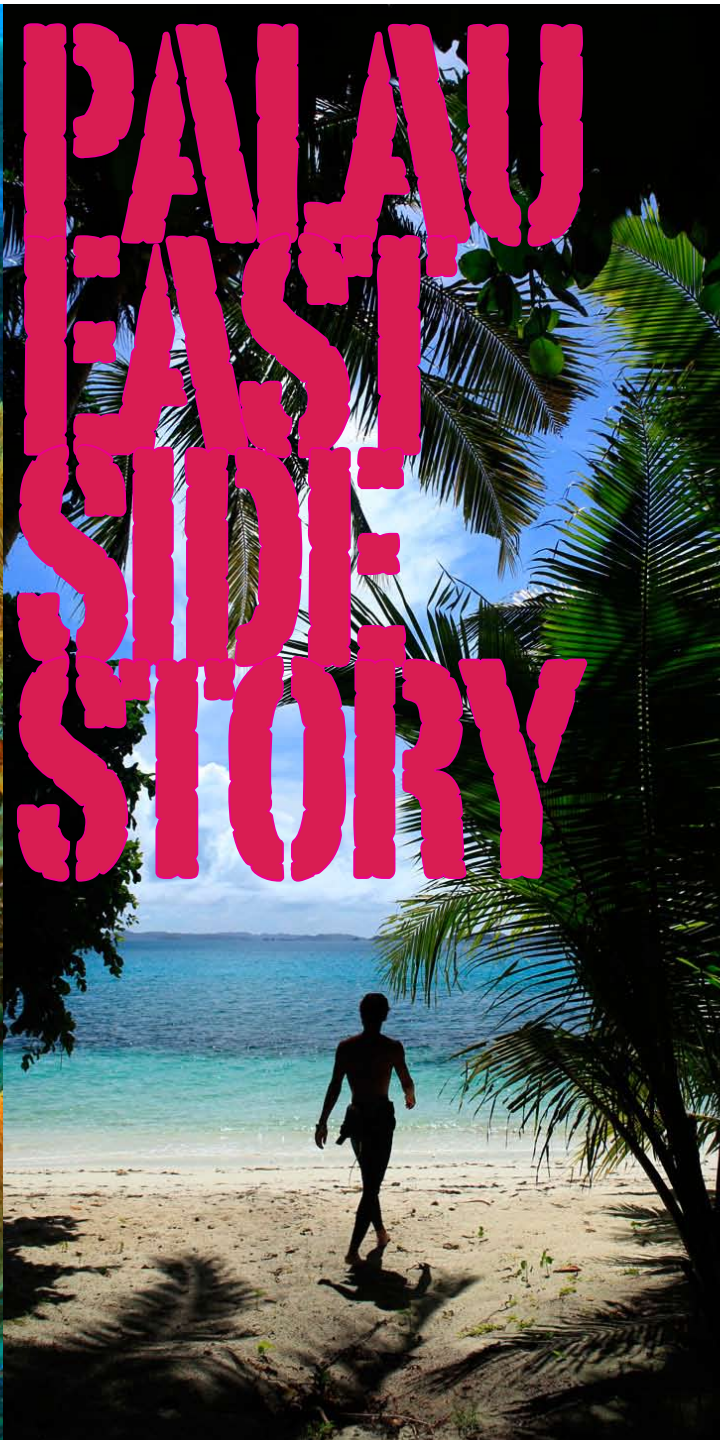




パラオのダイビングシーンを変えるかもしれない動きが、
一つのダイビングサービスから始まっている。
パラオにある既存のダイビングポイントに加え、
ここ数年で、20近くのポイントの新規開拓に成功した、ブルーマーリン。
長年「良いポイントが見つからない」と未開拓だった、パラオ東部エリアに、
10近くのもの、オリジナルポイントを開発。
まずは、その東部エリアの全貌を二気に紹介していきたいと思う。
何故、そこまで未開拓の東部エリアにこだわったのか。
ブルーマーリンのポイントリサーチ徹底取材第二弾



PALAU EAST SIDE STORY

ブルーマーリン
ポイントリサーチ徹底取材
Vol.01, 東部エリア

Photo & Text = Takaji Ochi
Special Thanks = Blue Marine
Design = PanariDesign





01/ポイントリサーチのきっかけを作った、ガイドの富永さん
02/ベテランオペレーター、キャプテンレモの知識も、リサーチには多いに参考になった

PIONEER STORY

ポイントリサーチは、無駄骨に終わることも多く、
忍耐のいる仕事だ



ポイントリサーチのきっかけ、 雨期のパラオ

パラオのベストシーズンと呼ばれる乾期は、移行期も含めて、11月後半頃から5月頃までの約6ヶ月。この時期、風は北東から吹いてくることが多い。パラオの顔とも言える、人気のダイブサイト、ブルーコーナーやブルーホール、ジャーマンチャネルなどのあるゲメルスエリアや、ウーロンチャネル、シャークシティ、シアスコーナーなどのあるウーロンエリアは南西に位置するため、穏やかなベストコンディションの日が続く。

しかし、雨期である5月後半～11月初旬までの間、風は南西側に回り、強く吹くと、西側の人気スポットは潜りに行くのが困難になる。潜りに行けたとしても、荒波を乗り越えて、かなりの無理を承知で船を出す事も多い。当然危険も伴うし、ゲストのストレスも多いわけだ。

そんなコンディションのときに、風裏となる東側で潜れる既存ポイントが、ゲロンインサイドと、ゲロンアウトサイド、ショートドロップという3つしかないのは、パラオ通の間では、認知されているところだろう。

しかも、ゲロンインサイドは、マクロ系のポイント。海が荒れると、近くの砂地の濁りが吐き出されてきて、透明度も落ちてしまうのが実情だ。アウトサイドも上げ潮時でしか面白いダイビングは提供できない。

しかし、今のところ、ブルーコーナーなどに潜りに行け

ない場合は、このエリアで潜るか、講習や体験で利用する、ロックアイランド内側のポイントに潜りに行くしか手段が無い。

そんな時、「またベストシーズンにリベンジしましょう!」とゲストに言うことが、多くのガイドにとって、どれだけ苦痛で、悔しいことか。「ゲストの人たちは、今、パラオに来て、パラオの海を楽しみたいと思っている。そんな人たちに対して、ベストシーズンにリベンジって何なんだ」。

パラオで6年間、ガイドをしてきた、ブルーマーリンの、富永直之さんの中にも、常にそんな思いがあった。

多くの先輩ガイドたちの間でも、「東側に、ポイントにできるような要素を見つけるのは難しい」というのが定説になっていた。しかし、彼の中で「自分で納得するまで確認してみないと、わからないじゃないか」という思いがくすぶっていた。

「ブルーコーナーが、世界に誇れるポイント、素晴らしいポイントだということは、十分認識しています」と富永さんは言う。でも、何年かパラオでガイドを続けていくうちに、ブルーコーナーの魅力に、おんぶに抱っこで潜り続けている自分自身に、「このままでいいのだろうか。何かできることがあるんじゃないか」という疑問も感じ始めていた頃でもあった。





次々と開拓されていく、 パラオ東部エリア

2005年頃から、少しずつ東側のポイントリサーチが開始されていたが、明らかにそのペースが上がったのは、2008年。フリーダイビングの選手として、フィン無し潜行水深55mの日本記録を持つ富永さんは、雨期には、大会への出場のために、パラオを離れていることが多かった。ショップとしても、フリーダイビングを続け、大会に参加できることを条件に、彼を雇用していた。その彼が、2008年には、パラオに残り、リサーチを進める決心をした。

しかし、サービスからリサーチポイントに行くまでには、船も必要だし、当然ガソリン代もかかる。一緒に潜るバディも必要だった。休暇を返上して、他のスタッフを誘い、リサーチへ繰り出す日々。

「最初の頃は、こいつまた何を始めるんだ、と思われていたと思います」。しかし、開拓が進み、ポイントが開発されるに連れて、他のスタッフたちのリサーチに対する態度も変わってきたという。

「自分から頭を下げて、つきあってもらっていたのが、いつの間にか、「明日はリサーチに行かないのか?」と自分の方が尻を叩かれる事も多くなってきた」という。そして、

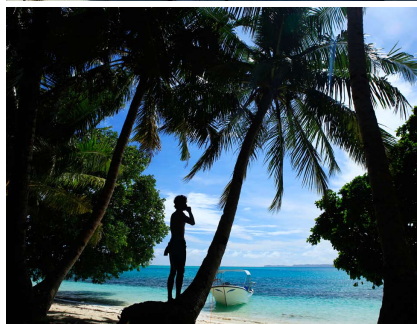
パラオ人スタッフの海に関する知識も、リサーチする上で多いに役にたった。

そのきっかけになったのが、アサウリーフエリアのポイントリサーチだった。

以前から、バラクーダの群れがいるという話は聞いていた。「とにかく、納得するまで何度も潜り続けました。ここで見つからなかったら、スタッフたちのモチベーションも下がってしまう。そういう思いもありました。だから、ここでポイントが開発できたことは、本当に大きかった」と富永さんは話す。

今現在、アサウリーフエリアには、ブルーコーナーにも匹敵するほどのバラクーダの群れが見られるポイントや、ニシキアナゴのコロニー、おそらく世界的にも珍しい、ヒメイトマキエイのクリーニングステーション、サンゴの美しい癒し系ポイントなどの見所がそろった、アサウコーラルガーデン、クレセントウォール、コーラルカーベットの3ポイントが存在する。

もちろん、ブルーコーナーの存在は偉大だ。パラオにあって、「ブルーコーナーありき」のダイビングスタイルは、今後も変わらないだろう。しかし、「これで、雨期で西側



のポイントが潜れなくても、お客さんに大物を見せられる。パラオの海のバリエーションの豊かさ

を、少しでも満足して帰ってもらえるのでは」そういう思いとともに、さらにリサーチは続き、2009年12月現在、ポイント名の決まっていない場所も含めて、東側では、10カ所ものポイント開拓が勧められた。

パラオの海の ポテンシャルの高さを実感

それが、後頁に上げるポイントだ。今回、通常であれば、ポイント紹介は小さな項目として扱うのだが、一つ一つのポイントを1ページずつ使って紹介していくことにした。

そして、このポイント開発は、東側に留まらず、ゲメリスエリア、ウーロンエリア、ユウカクチャネルのある北西エリアにまで広がっていて、一度には紹介しきれない。そのため、今回はポイント開発のきっかけとなった、東側のエリアのみを紹介。続く第2弾で西側のエリアを紹介していくことにする。

取材させてもらって、感じたことは、よくぞ、これだけの

ポイントを短期間で新たに開拓したなという感嘆の念。そして、パラオの海には、ダイビングで潜るのに適したポイントが、まだまだ十分に残っているほどのポテンシャルが秘められているなどということだ。

個人的好みはあると思うが、今回ブルーマリンが「オリジナルポイント」と呼んでいるどの海を取っても、及第点が上げられる、個性的で面白いポイントばかりだった。パラオ以外のどのディスティネーションに行っても、まともな写真で表現するのが困難なポイントというのは、いくらでもある。しかし、今回、どのポイントを撮ってみても、見事にその特徴の違いを、数本潜ったダイビングで、数枚の写真でこれだけ表現できるという事自体が、「オリジナルポイント」の個性、面白さの証明であると言えるのではないだろうか。

もちろん、「パラオ」と言えば、「ブルーコーナー」であり、「マンタ」の見られる「ジャーマンチャネル」であることに変わりはない。しかし、ブルーマリンが開拓した「オリジナルポイント」の数々もまた、今後パラオの顔の一つとして、長く、多くのダイバーたちに愛され、潜られ続ける可能性を持ったポイントに成長していくに違いないと感じた。

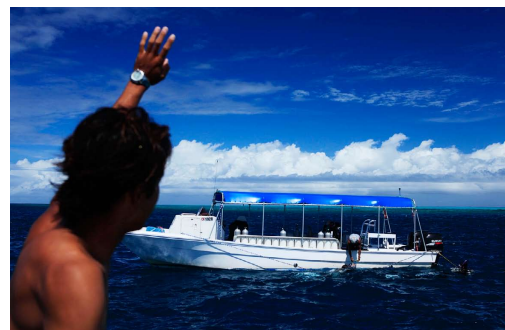
- ブルーマーリン オリジナルポイント
- 従来からのダイビングポイント



特に東側は、ギンガメアジやバラクーダの群れを确实

今回下記に挙げた7ポイントの他、確率はまだまだ低い
いが、マンタ狙いのポイントのウラエイチャンネル (Ulaei
Channel) と、名称未設定のポイント2カ所がある。

東部エリア、 オリジナルポイント徹底ガイド

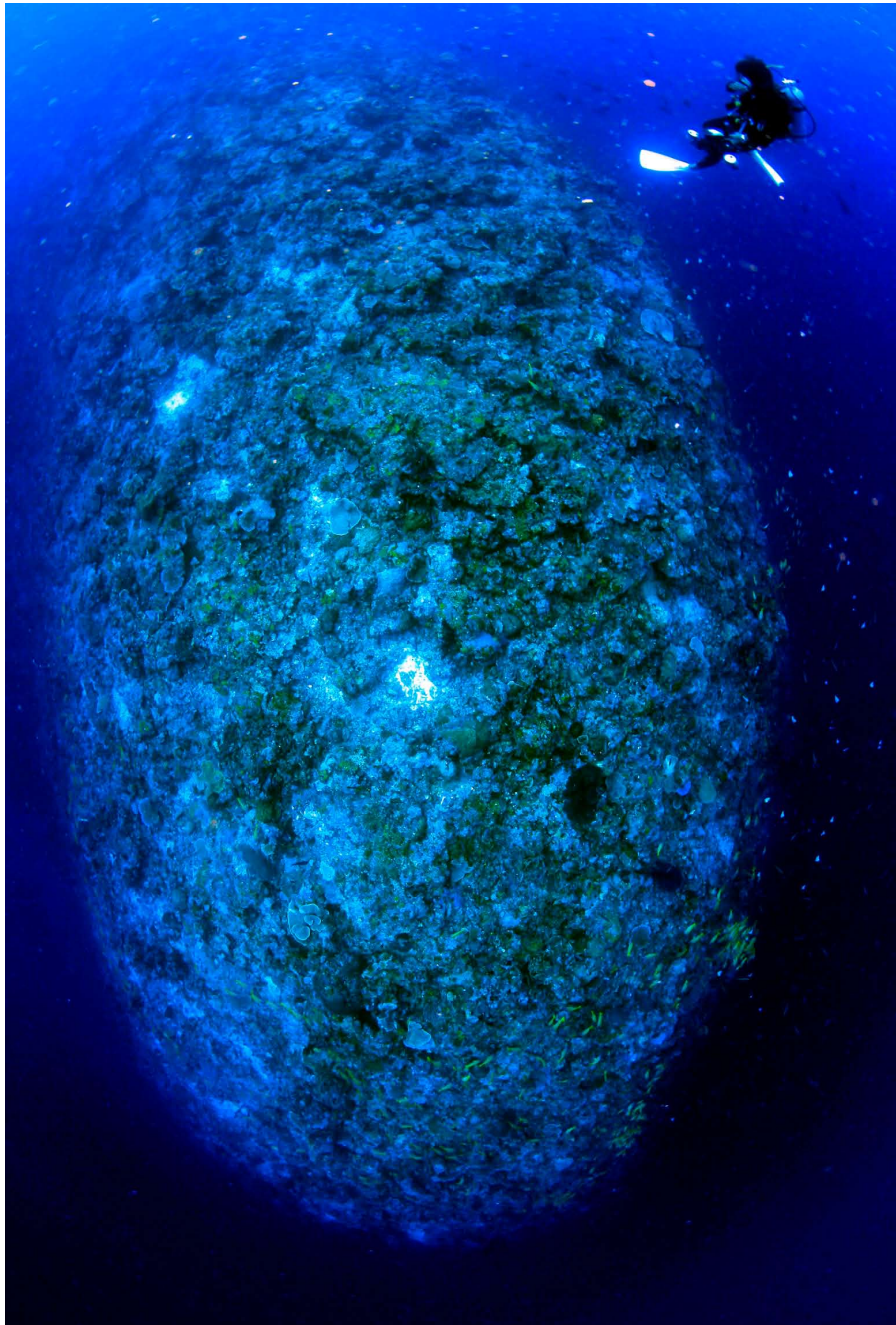


ブルーマリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.01, 東部エリア

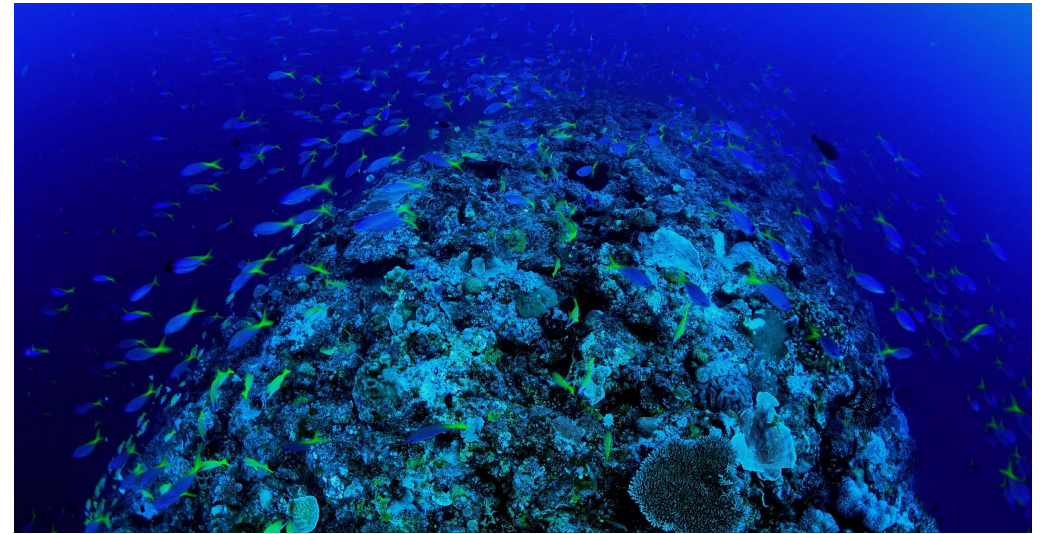
Web-lue 2009-2010. Winter

Information Link
<http://www.meluis.com>





親指の形をしたリーフの先端は、とても印象的だ



一点集中で魚群を狙う “サム”

01 ORIGINAL POINT GUIDE THUMB

リサーチを開始した初期の2006年頃に成立した、チャンネル沖の出入り口付近のポイント。沖に面したリーフの先端が、親指のような形になっているのが特徴的。ポイント名は「親指」の英語名から。全体的にリーフが深く、親指の上で水深は25～30mになり、周囲も20mぐらいと浅場はない。この親指部分での一点集中ダイブになる。

先端に潮があたり、クマザサ類やツムブリ、ウメイロモドキ、サメなどが見られる。特にプランクトンがよく流れてくるので、そんな時はクマザサ類が密集してかなり魚影は濃くなる。

指の上には、ヨスジフエダイが群れていて、彩りを与えている。沖に向かって指の右は砂地のスロープ、左はドロップオフになっており、深場から、サメが多く上

がってくることもある。

また、一発大物が出る可能性もあるポイントで、過去にはバショウカジキ、シルバーチップシャーク、遊泳中のマンタ、補食中のマンタ、ヒメイトマキエイなどが出たことがある。

一点集中ではあるが、魚群がはじけるように、動き始めるのが圧巻。とくにウメイロモドキとクマザサハナムロが、川の流れのように、周囲を埋め尽くすと、どこにカメラのファインダーを向ければいいのかと、途方に暮れた。

水深が深く周囲に浅場が無いので、一気に潜って、一気に浮上という感じ。とにかく、親指のような地形はとても印象的だった。



現在確認されている中では、おそらくパラオ最大級のヨコミズスリバチサンゴの大群生

サンゴ礁の豊かさを堪能する “アサウコーラルガーデン”

02 ORIGINAL POINT GUIDE ASAU CORAL GARDEN

沖に向かって、穏やかな斜面を形成している、サンゴ礁のポイント。若いキャベッジコーラルの群生や、パラオでは現在No1の規模と思われるヨコミズスリバチサンゴの大群生がある。水深20mぐらいから、40mぐらいまでの斜面を扇状に覆っていて、横幅も広いところでは10m以上になる。

そのサンゴの上に、アカヒメジが群れていて、彩りを添える。

東側では、次のクレセントウォールというポイントと同じ、かなり大きなバラクーダの群れが見られるのが見所。オオメカマスの群れや、マダラタルミの群れ、時折ツバメウオの50匹ぐらいの群れがいることも。

潮回りによっては、オキフエダイの大きな群れが、スリバチサンゴの上に現れる。上げ潮でエントリーして、リーフを右肩に見ながら移動して行くダイビング。エア持ちが良ければ、そのまま隣のクレセントウォールまで、潜ることも可能。

今回の取材で最初に潜ったポイント。最初はキャベッジコーラルの小さな群生などあるが、突如眼下に



01/定番で見ることができる、オオメカマスの群れ

02/ブラックフィンバラクーダの群れの規模はブルーコーナーを上回る

スリバチサンゴの大群生が姿を見せる。既存のポイントとしては、ウーロンチャネル内のサンゴが有名だが、規模としては、はるかにこちらの方が上回っている。

ただ、サンゴが群生しているだけでなく、アカヒメジが結構群れているため、その群れを絡めての撮影も楽

しい。今回のダイビングでは、そのままクレセントウォールまで移動。

バラクーダの群れの他、期待していなかった、ヒメイトマキエイも目撃することができて、かなり得をした気分になった。

PALAU EAST SIDE STORY

ブルーマーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.01, 東部エリア

Web-lue 2009-2010. Winter



Information Link
<http://www.meluis.com>

関連情報HPへ



ブルーコーナークの群れを遥かに上回る
ブラックフィンバラクーダの群れに
遭遇できるチャンスがある

アサウコーラルガーデン&クレセントウォール

PALAU EAST SIDE STORY

ブルーマーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.01, 東部エリア

Web-lue 2009-2010. Winter



Information Link
<http://www.meluis.com>

← 関連情報HPへ



砂地のスロープが広がり、そこにサンゴや岩が多く点在する。水深25mぐらいから狭い範囲でドロップオフ状に落ち込んだ地形になっている場所があり、潮あたりが良いと、そこにクマザサハナム口やウメイロモドキなどの魚が集まる。

強い流れがかかると、サメが50匹くらいいることがあり、シルバーチップシャークが混じっていた事もある。

ドロップオフ手前の砂地のスロープにある、水深25～30m前後の3カ所の小さな根が、ヒメイトマキエイのクリーニングステーションになっている。マンタはともかく、ヒメイトマキエイのクリーニングステーションは、世界的にも珍しいのではないだろうか。

ステーションの周囲の砂地には、アキアナゴと、これまた珍しいニシキアナゴのコロニーがある。パラオでは、



01/ 水深26m付近から確認できる、ニシキアナゴのコロニー

02/ このポイントでも、見ることができるバラクーダの群れ



最高で7個体を目撃した、ヒメイトマキエイ

世界的にも珍しい？ヒメイトマキエイのクリーニングステーション。水深30m



ジャーマンチャネルの水深40m付近でコロニーが確認されているが、水深26m付近と浅いコロニーは、現在おそらくここだけではないと思われる。

浮上時には、ブラックフィンバラクーダの群れを見られる可能性が高い。この群れはアサウコーラルガーデンで潜るときに見られる群れと同じもので、アサウの場合、上げ潮で、クレセントの場合下げ潮で潜ると、タイミングよくバラクーダの群れに遭遇できるチャンスも多くなる。

時折、ギンガメアジが深場から上がってくることもあるが、警戒心が強くて、寄れない。

とにかく、興味の対象としては、ヒメイトマキエイのクリーニングステーションとニシキアナゴのコロニーだ。

今回の取材では、4回潜って、4回連続でヒメイトマキエイに遭遇した。多い時には、7匹が一度に姿を見せた。もちろん、ジャーマンチャネルのマンタ同様に、いつも確実に会えるというわけではない。

7匹を見たのも、クリーニングステーションから、ブルーウォーターへ悠然と移動をはじめた5匹のエイたちをしばらく追跡してのち、2匹が加わり、7匹になった。それにしても、ブルーウォーターを集団で泳ぐエイが、まるでスローモーションを見ているかのように優雅で、美しかった。

「エイたちが、ダイバーに慣れるまで極力ストレスを与えたくない」という意向から、今回の撮影では、マクロレンズを使用して、距離を取ってエイの撮影を行った。

ニシキアナゴも警戒心が強く、なかなか単体で撮影というのは難しいかもしれないが、群れている状況であれば、慎重に接近すれば写真のように撮影が可能だ。

世界的にも珍しい ヒメイトマキエイのクリーニングステーション “クレセントウォール”

03 ORIGINAL POINT GUIDE CRESCENT WALL.

PALAU EAST SIDE STORY

ブルーマールン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.01, 東部エリア

Web-lue 2009-2010. Winter



Information Link
<http://www.meluis.com>

関連情報HPへ

サンゴ礁を“飛ぶ”癒し系ダイビング “コーラルカーペット”

04 ORIGINAL POINT GUIDE CORAL CARPET



超癒し系ダイビングが堪能できる、枝サンゴの白い絨毯



リーフ上の浅瀬のサンゴも元気に成長している

アサウリーフのチャンネル内のポイントで、5mくらいから15mくらいまでの斜面に、枝サンゴがびっしりと生えていて、その光景が続く。特に目立った魚の群れや、大物はいないが、チャンネル内なので、流れが発生しやすく、美しいサンゴの絨毯の上をドリフトしながら、浮遊気分を堪能するのは楽しい。

群生する枝サンゴが、密で、しかも白くて同じ形をしていて、まるで、雪の上を浮遊してるかのよう。単調ではあるけど、太陽の光が差し込むと、サンゴの上に光の揺らめきを感じられて、超癒し系のダイビングが満喫できるに違いない。そういう意味でも、個人的には、好きなポイントだ。

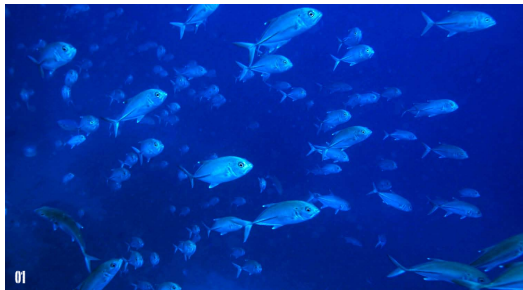
スノーケルでも十分にサンゴの美しさを堪能できるポイント。リーフトップのサンゴの群生も見事で、カメラマンとしては、つつい半水面撮影をしたくなってしまった。

大物は期待できないので、好みは分かれるところ。こういうポイントをリクエストするなら、絶対に晴天の時に限る。

PALAU EAST SIDE STORY

ブルーマリーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.01, 東部エリア

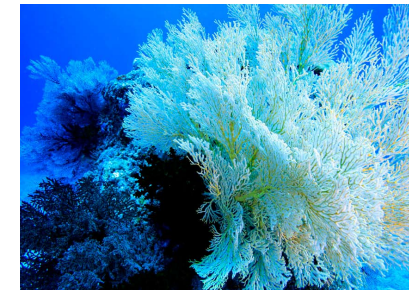
Web-lue 2009-2010. Winter



01/ エントリーと同時に、様子を見に浮上してくるギンガメアジの群れ
02/しばらくはダイバーの周囲を泳ぎ回る



やる気無さげに群れるギンガメアジが特徴的
チャンネルの真ん中にある大きな根の周囲を潜る。根のトップは10mを切るが、その周囲は25mぐらい。回りは平坦な砂地が広がっているという、パラオではあまり見かけない水中景観。
このメインは、ギンガメアジの群れ（若魚と成魚の2グループ）が見られる。ただし、ダイバー慣れしていないので、最初は様子を見に来るが、その後一気に、



カラフルなイソバナも多く見られる

潮通しのいい根と やる気無さげなギンガメ “トレバリーヒル”

05 ORIGINAL POINT GUIDE TREVALLY HILL



それに満足すると、ちりじりに、海底へと泳ぎ去っていく

距離を取る。
この他、マダラタルミの群れ、クマザサハナムロの群れなどが見られる。砂地では、オオメカマスが群れていたり、ツカエイとの遭遇率も高い。
また、潮通しが良いため、大きなイソバナ類も目立つ。エントリーは上げ潮が良く、沖では時折カジキが跳ねるのを目撃するが、ダイビング中にはまだ遭遇していない。
数はおそらくブルーコーナーに匹敵するとは言っても、やる気無さげに散漫に群れているギンガメアジたち。それをどう表現するかが、なかなか難しかった。

結果、エントリー直後「なんだ、なんだ？」とワラワラとダイバーの様子を見るために、浮上してくるシーンが一番群れを撮り易いと判断。
なので、このポイントに入ったときは、ギンガメアジの写真を撮りたければエントリー直後が狙い目だ。



砂地には、オオメカマスやオオカマスが群れを作る

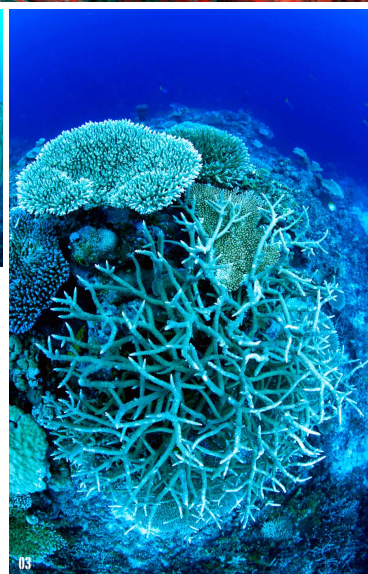
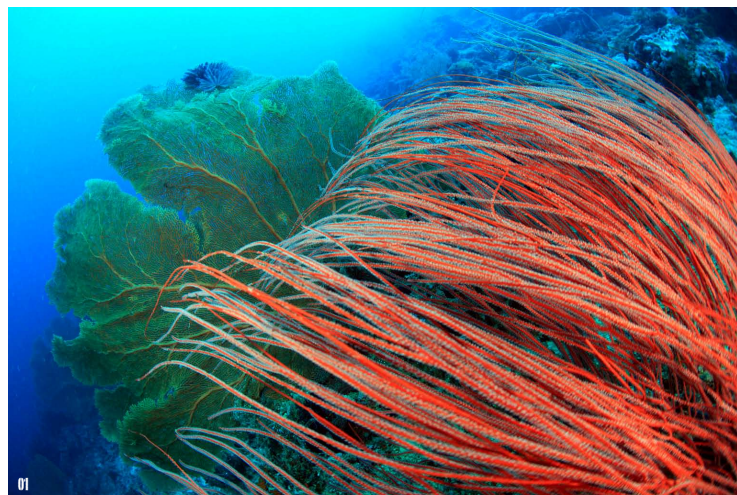
複雑な潮が生み出す 群れとサンゴとソフトコーラルの楽園 “Wリーフ”

06 ORIGINAL POINT GUIDE W REEF

チャネルのエントリー付近では、クマザサハナムロの大群に遭遇



チャネル内のオレンジ色の巨大ウミウチワの大群生は圧巻



01/ヤギ類も彩りを添える

02/チャネル内に点在する巨大ウミウチワ

03/リーフ側のハードコーラルも美しい

チャネルを潜るポイントで上げ潮、下げ潮に合わせてチャネルの外から中、中から外とコースを変える。チャネル内は大きなイソバナやウミウチワ、ヤギ類が沢山群生しているのが、既存のポイントでは見かけない光景。

チャネル外側のリーフは、ハードコーラルが美しく、そこにクマザサハナムロやウメイロモドキなどが群れて壮観だ。

チャネルの外から中の流れでは、出入り口付近に尋常ならぬ数のクマザサ類が密集し、サメやインマングロ、ヨコシマサワラ、ツムブリの群れ、などが見られる。

上げ潮、下げ潮でエントリー可能だが、チャネルの外から中への流れが面白い。しかし流れの発生パターンは複雑で、単純に上げの時間帯だから、上げ、下げの時間帯だから、下げというふうにはいかないという。

湾内なので、透明度はそれほど良くはない。ショップから10分の距離にあり、もしこのポイントを確認して潜り辛そうであれば、沖のショートドロップを利用できるという上では、メリットのあるポイントだ。

リーフ外側の美しいハードコーラルの群生、チャネルコーナーでのフィッシュスプのような魚の乱舞、そしてチャネル内の巨大なウミウチワの大群生と、明らかに大別できる3つのバリエーションをドリフトしながら潜る。

ウミウチワの大群生は、確かにパラオの他のエリアではあまり目にすることがない。海外では、何力所があるが、これほどの魚群は同時に堪能できなかった。激しく移動しまくるので、マザサハナムロの群れをウミウチワなどと絡めて撮影するのは、かなり難しかった。



カラフルな体色が目立つクロスズメダイの幼魚

水深5mぐらいの砂地からエントリー。沖に向かって、7～8m移動すると、水深30mを越える砂地の斜面が続いている。一面が砂地で、点在するパッチリーフの小さなサンゴの根には、様々なマクロ生物を観察できる。

流れも無く、のんびり潜れるので、チェックダイブにも最適。大物は期待できないが、とにかくマクロが面白いポイント。



01



02

01/外洋性のバートレットアンティースも確認
02/様々な根が点在し、それぞれに違った魚たちが生息

砂地の斜面で のんびりマクロ三昧 “サンドガーデン”

07 ORIGINAL POINT GUIDE SAND GARDEN



03



04

03/メガネスズメダイの幼魚もカラフルでかわいい

04/ 脳みそのような形が印象的なコモシコロサンゴ

ゲロンインサイドが、時に透明度がかなり悪くなるのだが、こちらは10m～15mと安定している。砂地に、まさに大仏の頭か、脳みそのようなコモシコロサンゴの群生もあり、アカネハナゴイなどが群生している。

サンゴの陰には、クリーナシュリンプ、砂地には、カニハゼギンガハゼなどの個体数も多い。

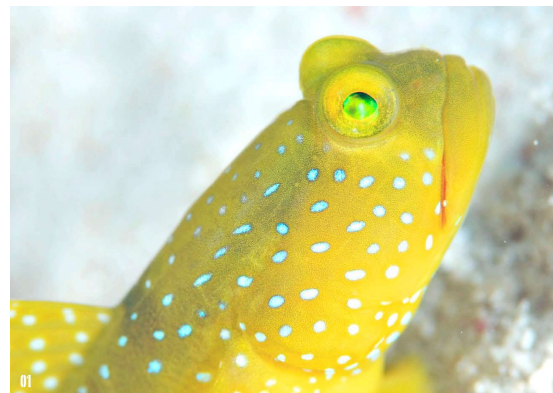
今回のロケでは5ダイブと、一番潜り込んだポイント。ここと、サムが2006年に開拓され、残りは2008年に開拓された。狙いがマクロということもあり、長く時間をかけた。砂地に、水深30mから2～3mまでパッチワークのように、特徴の違うサンゴの根が点在していて、それぞれに、違った景観、生物を楽しめるのが、嬉しい。

しかも、エリア的にも、かなり狭い範囲のことなので、本当にのんびりとマクロウォッチングや撮影が楽しめる。幼魚も豊富に観察できるし、リーフ内であるにも関わらず、外洋性のバートレットアンティースや、モンツキカエルウオなども確認できた。

とにかく、マクロの豊富さは写真を見てもえれば、一目瞭然。のんびりまったりフィッシュウォッチングにおすすめのポイントだ。



アカネハナゴイもなかなか逃げないので、撮影しやすい



01/浅瀬には、ギンガハゼの個体数も多い
02/一緒に泳ぐ、シマキンチャクフグとノコギリハギの幼魚
03/泳ぎの一生懸命さが可愛い、マダラタルミの幼魚

07 ORIGINAL POINT GUIDE SAND GARDEN

04/動きが滑らかなヒレナガハギの幼魚

05/ベンテンコモンエビ

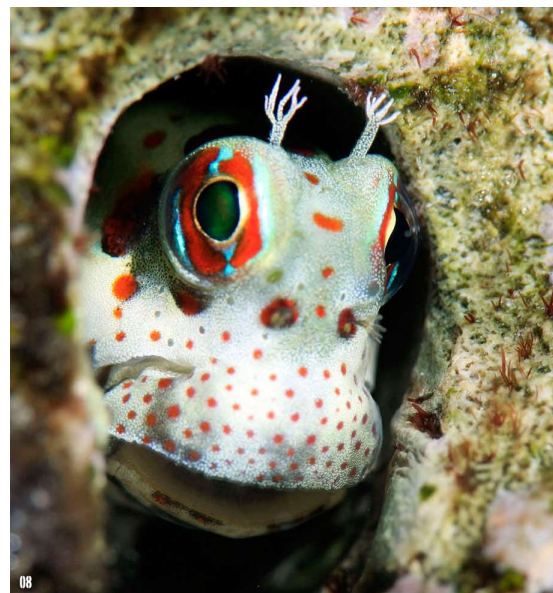
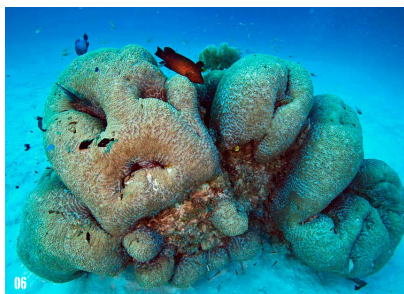
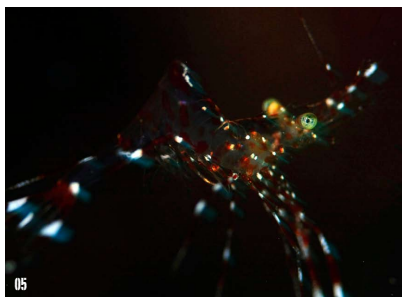
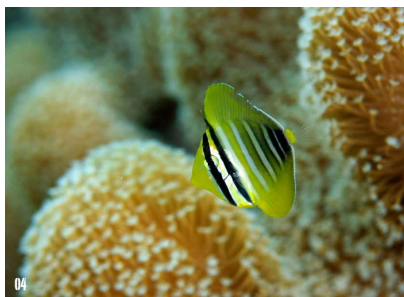
06/「こだま」のようなサンゴの根

07/逃げない、キヒロサンゴハゼ

08/外洋性のモンツキカエルウオも発見

09/そして、その近くに内湾性のカニハゼ

10/イシガキカエルウオも個体数は多い

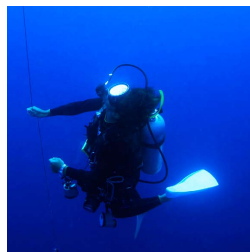




幅広い年齢層のダイバーに人気でリピーターも多い。特に今回取材のターゲットとなった、オリジナルポイントの数々は、パラオでのダイビング経験の豊富なリピーターを中心に、「パラオの海の新たな表情が楽しめる」として、ディスカバリーコースと銘打って2009年1月より提供していて、参加者したダイバーからは、人気も上々だとか。ディスカバリーコースに参加するのに、通常のファンダイブに対しての追加料金などの設定は無く、希望者が揃えば参加可能だそうだ。

パラオロイヤルリゾート内に店舗を構えるブルーマーリン。施設も新しく、充実している。店内には、スタッフたちが、デザインしたオリジナルTシャツなどかわいいおみやげが豊富に取りそろえてあるお店「White Rock Lily (ホワイトロックリリー)」が併設。観光客にも人気だ。

船は、パラオでもまだ数の少ない、トイレ付きのスピードボート3隻を有し、体験ダイブから、講習ファンダイブまでをそつなくこなす。



パラオを知り尽くした スタッフと オリジナルポイントへ

ブルーマーリン
<http://www.meluis.com>



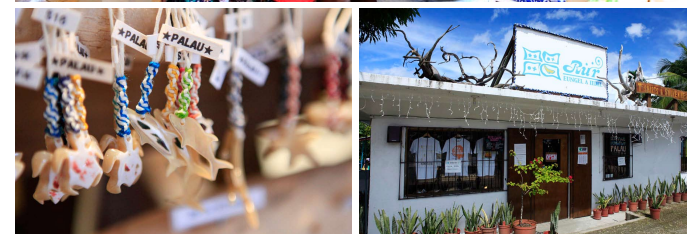
RUR GIFT SHOP

おみやげとしてお勤めなのが、コロール島の中心に店舗を構えるRUR GIFT SHOP。RURはパラオ語でパラオクチナシモドキの花の意味。英名ではwhite Rock Lily。

パラオでデザインされた、約20種類の

オリジナルTシャツを販売していて、観光客からも人気。ベビー服、子供用Tシャツもあり、全てパラオでデザインされたもの。

その他、パラオで取れるサンゴや貝、ココナッツでデザインされた、ネックレス、携帯ストラップなどのアクセサリも人気。



プレゼント!

今回のロケでは、ホワイトロックリリーから、ブルーマーリンの定番オリジナルTシャツをプレゼントとして提供して頂きました。女性用Mピンク、Lイエロー、男性用Mネイビー、Lナチュラルカラーの4点。現地に行けば、女性用は9色、男性用は8色と、カラーバリエーションも豊富。

※プレゼントをご希望の方は、HPのお問い合わせページより、「ブルーマーリンのTシャツ希望」と明記の上、ご希望のサイズとカラーを記載して、ご連絡ください。当選は発送を持って、かえさせていただきます。

PALAU EAST SIDE STORY
ブルーマーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.01, 東部エリア
Web-lue 2009-2010. Winter



Information Link
<http://www.meluis.com>

← 関連情報HPへ